

「教育長として、滋賀の教職員へ期待すること」

滋賀県教育委員会教育長 齋藤俊信

平成17年4月28日(木)

於 栗東芸術文化会館「さくら」

e-learning収録原稿

皆さん、こんにちは。

滋賀県教育長の齋藤です。

本日、私としては、皆さんに直接お会いして、私の滋賀県の教育にかける思いと皆さんへの期待するところをお話したかったのですが、どうしても都合が付きませんでした。

申し訳ありませんが、こうした形でビデオでのお話でお許しを頂きたいと思います。

先ずもって、皆さんに日頃の教育活動にご努力頂いております事に対しまして深く敬意を表しますと共に、心から感謝申し上げます。

私は、昨年4月教育長に就任致しました。都道府県では、全国で唯一の民間出身の教育長という事がありますので、若干私の略歴を申し上げます。大学卒業以来37年間、松下電器に勤め、その間約22年間海外の5カ国、スウェーデン、スイス、オーストリア、アメリカそしてイタリアと、それぞれの国に4～5年ずつ生活をし、販売の仕事をして参りました。

その後、「パナソニックスカラシップ」というアジアの留学生を支援する事業や「松下幸之助花の万博記念財団」や「松下国際財団」の事務局長という立場で国際交流の事業を担当して参りました。

また、出張では他のヨーロッパ各国はもちろん、中国、韓国、タイ、フィリピンなどアジアの国々、ロシア、中南米、中近東の国々にも行きまして、いろいろな国の人々と仕事をし、また、公私に渡ってお付き合いをして参りました。

こうした経験から「これからの国際社会に生きる子どもたちにどのような“力”が必要か、そして、その力をどのように育てていくか？」という事を考えました。「国際社会に通じる人づくりとは？」ということでもあります。

私は、その人づくりとして、5つのポイントが非常に大事だと思うのであります。

その第一点は、「公の心を持つように意識付けすること」です。何のために、なぜ勉強するのかという問い掛けに対する答えを見つけるよう意識付けすることです。

小・中学校段階で答えを出すことはなかなか難しいかも知れませんが、教育というものは、「なぜ勉強するのか」というところから始まるのではないのでしょうか。それを問い続けていけば、その人その人なりに、ある時点でハッと気がつくと思います。将来、それぞれの働きを通じて、何らかの形で社会に貢献するんだという公の心をしっかりと持つことが大切であると思います。

二点目は、「日本人であれば、日本人としての誇りと自信をしっかりと持てるような教育をしていくこと」です。自国のアイデンティティをしっかりと持つことが重要であると思います。

三点目は、「自分のことだけでなく、相手の身になって物事が考えられる人にならないといけないということ」です。

国際社会の中での共存共栄、お互いが在って共に栄える、お互いが成り立つというコンセプトで物事に当たるためには、相手の身になって物事が考えられる人にならないといけないと思います。相手の価値観や相手の国の社会、文化、伝統をはじめ、いろんなものを

理解し尊重する、そのことは世界だけでなく自分の隣の人に対してもいえるわけです。仕事においても、人と人との関わりにおいては、これが基本となります。近江商人の「三方よし」の考えに通じるものと思います。

四点目は、「国語力をしっかり身に付けること」です。自分の考えをきちんと相手に伝えられないと国際社会では通用しません。ですから、その訓練をしなければなりません、その基本となる国語力は非常に大事であります。

私はスウェーデン、スイス、オーストリア、アメリカ、イタリアの五カ国で勤務しましたが、それぞれの国で地元の言葉を勉強しました。外国語はやろうと思えば何とかなるものです。しかし、海外に行って痛感したのは、基本の国語力がしっかり身に付いていないと話が通じないということです。日本語でも相手の言うことをしっかり聞いて、自分で考え、その考えを論理的にきちんと相手に伝えられなければ外国語でもできません。

五点目は、「人間的な魅力」です。

外国にもいろんなタイプの人がいるわけですが、やはり、素晴らしいと思う人はそれぞれ、人間的な魅力があります。そういう意味で、その人なりの魅力が出るような教育をしなければいけないと思います。つまり、その人なりの特徴、個性、能力を伸ばす。

私はいろんな国で、いろんなやり方をみてきました。どこも、大げさなくらいに褒めて育てていました。子どもは叱られるより褒められた方がうれしいし、楽しい。やはり学校が楽しいという形にならないと、勉強しようという気も起こりません。

それぞれ人には必ず何かいいところがあるはずで、それを意識して褒めて育てる。それが個性と能力を伸ばすコツではないかと思います。自分が好きなこと、得意なことをとことんやる。とことんやっていけばその道に精通し、自信がつく。自信がつくと、魅力が出てきます。そうした魅力を持っていれば世界に通用します。

以上5つのポイントを申し上げましたが、これら5つの事は、日本の社会でも、世界の

どこでも通じる大事なポイントと思います。

是非皆さんにこうした5つのポイントをお考え頂きこれから「未来をつくる子ども達に国際社会に生きる確かな力」を育てて頂きたいと願っております。

次に、この機会に教職員の皆さんに自問自答して頂きたい「3つの問いかけ」について、お話ししたいと思います。

これは教育長に就任して以来、教育に携わってこられた諸先輩や教育現場の方々から学んだ事でもあり、また、私が実社会で経験してきたことから感じた事であり、まさに先生方に期待するところであります。

まず、第1の問いかけ。

「自分の行動は、すべて子ども達のためか」ということであります。

自分の行動の判断基準が、ぶれてはいけません。先生という仕事は、一人ひとりの子どもの人生に確実に影響を与えるという大変大きな責任を伴う仕事です。それだけに、やりがいもまた喜びも大きいものと思います。

「人づくりを通じて、社会の発展に貢献する」という崇高な使命を自覚し、まず「自分の行動はすべて子ども達のためにやっているか？」ということをも自分自身に問いかけて頂きたいと思います。

そして、常に「自分にできる最高の教育」を子ども達に与えて頂きたいのです。

次に2つ目の問いかけ。

「自らの後ろ姿で教えようとしているか」という事でもあります。

普段、みなさんは、子ども達に前を向いて教えていると思います。そして言葉を使って

教えていると思います。しかし、大事なことは「無言の教え」であり「後ろ姿をしっかりと子ども達に見せること」だと思います。子ども達は、皆さんの後ろ姿をじーと見えています。信頼できる先生かどうか、口で言っている事と実際の行動が一致しているのか、先生方の行動をじーと見ているのです。

是非みなさんが自らを律し堂々と範を示して頂きたい。そして子ども達や保護者から尊敬され感謝される存在であって欲しいと思います。

次に3つ目の問いかけ。

「授業に日々新たな創意工夫をしているか」という事であります。

教師にとって「授業が命」であります。昨年末発表されたOECDの学習到達度調査等で学力低下が指摘されましたが、私がむしろ大きな問題と思っているのは日本の子ども達の学習意欲が低下しているという事です。

「なぜこれを勉強するのか」という動機付けをすると共に「勉強すること自体が楽しい」と思うような授業のやり方、また、教材等の創意工夫をして頂きたい。子どもがどこで分からなくなり、どこで楽しくなるかよく見て研究し、「授業の改善に次ぐ改善」をやって頂きたいのです。

これは、ひとり自己研鑽のみならず、今回のようにこうした研修に参加したり、先生同士の授業公開などお互いのレベルアップを図るなど、学校全体で是非取り組んで頂き、子ども達に「皆さんの学校で可能な最高の授業」をやって頂きたい。

以上、3つの問いかけを日々自らに問いかけて頂きたいと思います。

さて、総合教育センターにおける研修は、みなさんの指導力の向上を目指して、演習と理論的な講義とを組み合わせる効果の上がる学びになるよう工夫されています。

しかし、謙虚に学ぶ姿勢のないところにどんな話も伝わっていきません。人間「まじめさ、誠実さ、そして素直な心」が大切です。子ども達に求めるように、皆さん方も研修の場にあっては、人の話に真摯に耳を傾け、「すべては子ども達のため」一つでも逃がさず学び取って頂きたいと思います。

今回の皆さん方の研修が実り多いものになることを願いますと共に、滋賀の子ども達にみなさんの力で最高の教育をして頂くことを期待し、私の話を終わらせて頂きます。